



国民の森林・国有林

中部森林管理局

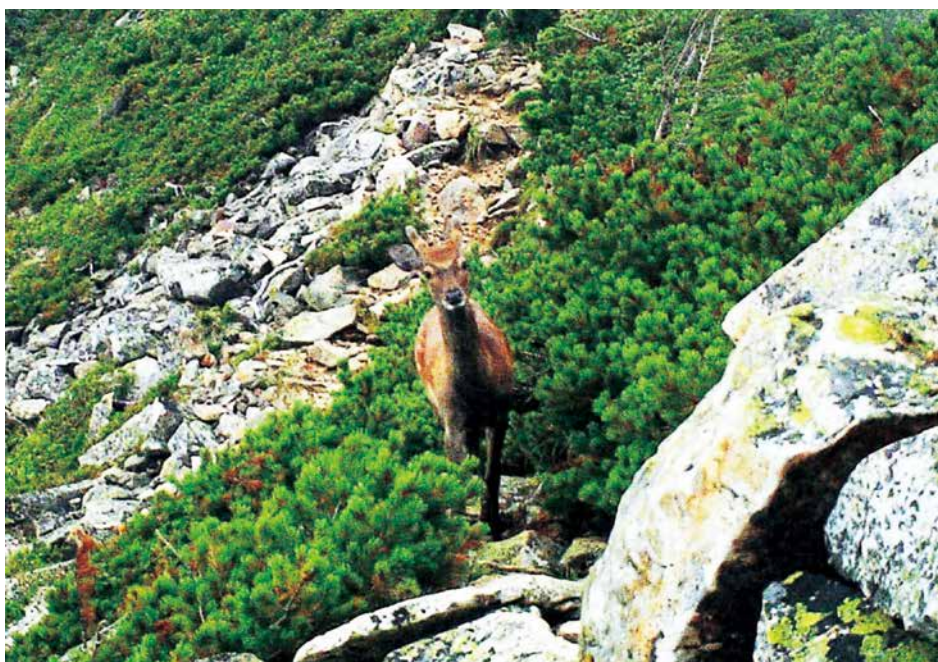
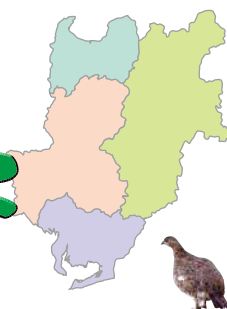
〒380-8575 長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

中部の森林



民有林と連携し
木材の供給体制を整備

北アルプスで
自動撮影された
ニホンジカ

主な項目

- 平成26年度中部森林管理局事業概要を公表…………… P2
- 各地からのたより…………… P7
- シリーズ「森林官からの便り」…………… P9
- シリーズ「ご当地自慢」…………… P10

平成二十六年 中部森林管理局事業概要を公表

「公益重視の管理経営と、 森林・林業の再生に向けた 各種取組を推進します」

五月十二日・十三日に局及び名古屋事務所において平成二十六年中部森林管理局の事業概要について、記者発表を行いました。

当局においては、管内の国有林の分布や資源状況等を踏まえ、以下に主眼を置いて管理経営を行うこととしています。

一 公益重視の管理経営の一層の推進

国有林には国土の保全や地球温暖化の防止などの公益的機能の発揮が求められており、国民との双方向対話を一層行いながら、各種計画に基づいた森林整備の実施や治山事業の効率的な実施による緑の国土強靱化対策の推進、保護林や緑の回廊等による生物多様性の保全、地域と一体となった鳥獣被害対策を推進します。

重点事項として四つの取組を推進します。

(一) 計画的な森林整備の推進

森林整備に当たっては、山地災害の防止、水源涵養機能の発揮、地球温暖化防止等の公益的機能の維持・増進を図るため、地域管理経営計画等に基づいた保間伐等を適切に実施するとともに、複

層林化、針広混交林化等多様な森林づくりを推進します。また主伐後の再造林を確実に実施します。これらの事業実施に当たっては、分収林契約満期後の更新面積が増加してきていること等も踏まえて、主伐後の再造林を確実に実施するための低コストで高効率な作業システムの定着や、コンテナ苗の特徴を活かし伐採から植栽までを一貫して行う作業システムの導入等、低コスト化に資する施業技術についての検討にも取り組みます。



下刈り

(二) 山地防災力の強化

○治山事業の着実な推進

安全・安心で災害に強い森林づくりのため効果的・効率的な治山対策や、集中豪雨等により被災した緊急性の高い崩壊地等の山地災害復旧対策を二十五年補正予算及び二十六年予算により着実に

進めるとともに、保安林の整備等による緑の国土強靱化対策を推進します。

また、事業実施に当たっては、生物多様性への配慮や木材利用の推進に努めるとともに、地域の特性に応じた治山事業の検討を進めます。

○国有林直轄治山事業の実施

国有林において、災害復旧事業の規模が大きい場合や特に高度な技術を必要とする場合は、県からの要請に応じて国が直轄で治山事業を実施します。

○災害発生時の迅速な状況把握・復旧対策の実施

大規模災害発生時は、国有林とも連携して、ヘリコプターの活用等による、調査や応急対策、復旧計画の策定、復旧事業の実施など迅速に対応します。



国道158号線の雪崩ヘリコプター調査のための
長野県・松本市との打合せ（中信署）

(三) 生物多様性の保全の推進

○高山植物等保護の実施

人々の多く訪れる乗鞍岳や立山などにおいて、グリーン・サポート・スタッフ（GSS）等による巡視やマナーの啓発活動を行い、貴重な森林生態系の保全管理に取り組みます。山火事や高山植物の盗採掘、廃棄物の不法投棄等の未然防止のため森林官等による国有林野巡視を行います。

○自然再生事業の実施

木曽駒ヶ岳や雲ノ平における高山植物



木曽駒ヶ岳植生復元作業（木曽森林ふれあい推進センター）



の復元活動を NPO やボランティア等と連携して実施します。

○保護林のモニタリング

国有林では、原生的な天然林や希少な動植物の生息・生育地等を対象に保護林を設定しており、保護林の現状を的確に把握し、保護林の設定目的に照らして保護林を評価することを目的として、地域管理経営計画樹立の前々年度にあたる森林計画区において、森林や高山植生、動物、利用動態等に関する現地調査を行います。

また、学術的見識を有する者から成る検討委員会を構成し、現地検討及び検討委員会を開催することで、保護林の設定



センサーカメラにより撮影されたツキノワグマ

目的に照らして評価を受けます。

○木曽地方の温帯性針葉樹林の取扱いの検討

天然ヒノキ、サワラ等から成る木曽地方の温帯性針葉樹林は、古くから歴史的建造物の維持や地場産業の継承・振興に大きな役割を果たしてきました。一方、温帯性針葉樹林がまとまって自然度の高い状態を構成している木曽地方の針葉樹林は現在では非常に貴重なものとなっています。

このため、木曽地方の温帯性針葉樹林の貴重性や地域振興に果たしてきた役割を踏まえ、昨年度、有識者等により区域や森林の取扱い方針等が取りまとめられました。今後は、この取りまとめに基づき管理委員会を設置し、基本計画の策定



温帯性針葉樹林がまとまって成林する木曽地方の森林

等具体的な取組等について検討します。

○ニホンジカ被害対策

地方自治体や学識経験者、NPO 等と連携しながら、地域連携推進等対策事業（野生鳥獣との共存に向けた生息環境等整備）として、浅間、美ヶ原、霧ヶ峰、八ヶ岳、南アルプス、北アルプス、七宗の地域を設定し、生息状況の調査や防護柵の設置、個体数調整等の取組を行います。個体数の調整は職員による捕獲、猟友会への委託、くくりワナの貸出、囲いワナによる捕獲（食肉利用を含む）等により行っています。



ニホンジカ被害（東信署）

（四）双方向の情報発信

国有林モニターによる現地見学会・モニター会議やホームページ等を通じて多くの情報の受発信を行い、より透明性



地域住民への庁舎開放
(夏休み子どもふれあいデー・局)



モニター現地見学会
(宮・庄川森林計画区・飛騨署)

の高い国有林野の管理経営を進めます。森林計画の策定に当たり、国有林の森林資源や整備状況、利活用等に関する情報を広く提供するとともに、地域の方々

との懇談会や現地見学会の開催、ホームページ等による意見募集を実施し、地域に根ざした幅広い情報や要請を森林計画に反映させるよう取り組みます。

二 森林・林業再生に向けた貢献

我が国の森林・林業の再生に向けて、戦後造成された人工林が本格的な利用期を迎える中、計画的な主伐の実施、主伐後の確実な再造林に取組むとともに、民有林と連携した施業の実施、国有林のフィールドや技術を活用した森林・林業技術者の育成、先駆的な技術・手法の事業レベルでの試行、林産物の安定供給等を通じて、民有林の経営に対する支援等に積極的に取り組みます。

重点事項として六つの取組を推進します。

(一) 森林資源の若返りの推進

地球温暖化対策として、政府では二〇二〇年度に森林吸収量2.8%（二〇〇五年度の温室効果ガス排出量比）を確保する目標を立てており、引き続き間伐の実施を促進するとともに、将来にわたる吸収量の確保を図る観点から、吸収量の低下した高齢級人工林の若返り及び齢級構成の平準化を図っていくことが必要です。これらのことから、利用が可能となる林分について、計画的な主伐の実施、主伐後の再造林による確実な更新を通じて、森林資源の若返りを図ります。

(二) 人材の育成・市町村支援

国有林のフィールドや技術力を活用



森林作業道現地研修（森林技術・支援センター）

し、森林・林業行政を支援できる森林総合監理士（フォレストラー）を育成するための研修やフォレストラー活動に必要な知識・技術を補強するための実践研修を実施します。また、大学等と連携し、将来の森林・林業技術者の育成に向けた取組も実施します。

さらにフォレストラーや准フォレストラーと位置づけられた国有林職員が県の准フォレストラー等と連携を図りつつ国有林の有する技術的な知見・情報を提供するなど、市町村森林整備計画の策定等に係る民有林支援に取り組みます。

(三) 林産物の安定供給

成熟期を迎えた森林の公益的機能の発

揮と森林・林業の再生を図るため、主伐や森林整備における間伐の結果得られる木材を林道等の路網を活用して低コストで生産・販売し、木材の安定供給に努めます。



ハーベスタ伐採（北信署）

(四) 木材需要の拡大

木材需要の一層の拡大を図るため、需要情報を的確に把握し、需要に即した木材を安定的に供給します（システム販売の推進）。また、高齢級人工林ヒノキのブランド化をさらに進める取組を実施します。さらに、土木工事を含む公共工事等の工事資材や工事現場の囲い、現場事務所等の仮設資材への地域材の使用を拡

大していきます。

(五) 民有林による林業再生の推進

民有林と国有林が連携して間伐等の森林整備や作業路網の整備に取り組み、林業の生産性の向上や林業事業体の育成・強化、木材の協調出荷・安定供給等の着実な推進を図り、森林の持つ多面的機能を持続的に発揮させるとともに、林業・木材産業の活性化に資することを目的に「森林整備推進協定」を締結し森林施業の集約化に取り組みます。

(六) 技術開発

民有林経営、森林の整備・保全に関する技術・手法への普及を念頭に、低コスト造林手法としての伐採造林一貫作業による低コスト化などの技術開発に取り組みます。これらについて、民有林と国有林の連携を一層推進するため、大学や研究機関と連携して取り組みます。



高齢級人工林ヒノキのブランド化
(木曽署・南木曽支署)



コンテナ苗

三 山村地域の振興と森林の総合利用

林産物の安定供給、野生鳥獣対策、国有林野の活用、人材育成を始めとした民有林への指導やサポート、民有林材を含めた木材の安定供給体制の構築等、山村地域の振興に寄与する取組を推進します。

重点事項として三つの取組を推進します。

(一) 森林とふれあいの場の提供

国民の保健、文化、教育の利用に資する自然休養林等のレクリエーションの森をより多くの方々に利用していただくためのPR活動等、地域の振興に寄与するための取組を地元関係者と連携しながら実施します。また、国有林に所在する森林散策路等を観光資源として活用するため、地域と一体となったPR活動に取り組みます。



飛騨白山白川郷自然休養林（飛騨署）

(二) 森林づくり活動へのフィールド提供

『国民参加の森林づくり』の活動を支援するため、「ふれあいの森」、「遊々の森」、「社会貢献の森」等の活動への技術支援やフィールド提供、各種団体等へ情報提供などの活動を市町村等と連携を図りつつ取り組みます。

(三) 地域の伝統文化継承への貢献

地域の伝統行事や文化の継承等に貢献するための活動への技術支援、フィールドの提供、市町村等への情報提供等に取り組めます。

平成二十六年度中部森林管理局事業概要につきましましては、HPに掲載しておりますので、詳細についてはそちらをご覧ください。

URL

<http://www.rinyamaff.go.jp/chubu/>

林業の歴史と木材の利用に関する展示コーナーの設置

「名古屋事務所」林業の歴史を学び国産材の普及や利用促進を図ることを目的に、『林業の歴史と木材の利用』の展示コーナーを設置し、四月七日一般公開しました。（参考URL：<http://www.rinyamaff.go.jp/chubu/pdf/140331-nagoyapdf>）



森林鉄道ジオラマに見入る学生

林業の歴史コーナーでは機械化以前の林業写真のパネル、江戸時代の伐木運材の様子を描いた絵巻物「木曾式伐木運材図会」（複製）、かつて木材輸送を行った森林鉄道のジオラマ等が展示されています。

また、木材の利用コーナーでは、国内

の森林や木材需給、木材価格、加工の現状などをまとめたパネルや、集成材等の見本、薪ストーブ等が展示され、ヒノキやスギなど十種類の木で作った積み木で木の良さに触れながら遊ぶことも出来るようになっています。

去る四月二十五日には、名古屋学院大学経済学部「地域の振興」を研究テーマとしたゼミの学生グループ十八名が来訪し、およそ二時間にわたり学習されました。



日本の林業を学ぶ大学生たち

学生たちは、リアルに再現され走行する森林鉄道のジオラマの精巧さや、かつての同大学も含めた熱田地区周辺の写真などに大変興味を示し、また、江戸時代の伐木運材の絵巻を見ながら「大木を人力で伐って川で流送していたとは…」と感嘆の記録が残されていたものだ。」と感嘆



丸太から苦勞して切り出した円盤にお絵かきする子供たち

この「みどりのフェスティバル」は広く地域の方々に楽しみながら気軽に森林とふれあっていただき、森林・林業及び木材利用への関心と理解を深めていただくことを目的に、地元の瀬戸市や環境省中部地方環境事務所など行政機関と森

みどりのフェスティバル'14

の声をあげていました。今後、さらに展示品を充実させ、地域の皆様や児童・生徒の皆様へ情報発信していきたいと考えています。

「名古屋事務所」四月二十九日（昭和の日）に「みどりのフェスティバル'14」を、愛知県瀬戸市にある瀬戸国有林「定光寺自然休養林」において開催しました。

林・林業に関わる関係団体が協力して実施しているもので今年で十回目となりました。

当日は、あいにくの雨模様となりましたが、地元瀬戸市を始め名古屋市などたくさんの方々が約五百人が来訪し、雨に濡れた新緑の鮮やかな自然休養林の中で、丸太切り、火おこし体験、マイ箸づくり、小枝のえんぴつ作り等、木とのふれあいを楽しみ、お昼には無料提供の雑汁に舌鼓を打っていました。

森林交流館で来訪者を歓迎する
モリゾー&キッコロ

また、丸山製材所が開発した少人数で簡単に組立・解体できる、国産材を使用した休憩小屋（今回の展示品はエコecoハウス・BBQバージョン）が展示され来訪者の興味を引いていました。

フェスティバル終了後には、中部森林管理局名古屋事務所長から、「地域の皆さんの役に立つことも国有林の大きな役割。その一環としてこのフェスティバルは大切。来ていただいた皆さんの

方々の笑顔が良かった。」と来年またこの場所でみなさんと一緒に取り組みたいので協力を。」と、関係者にあいさつし終了しました。

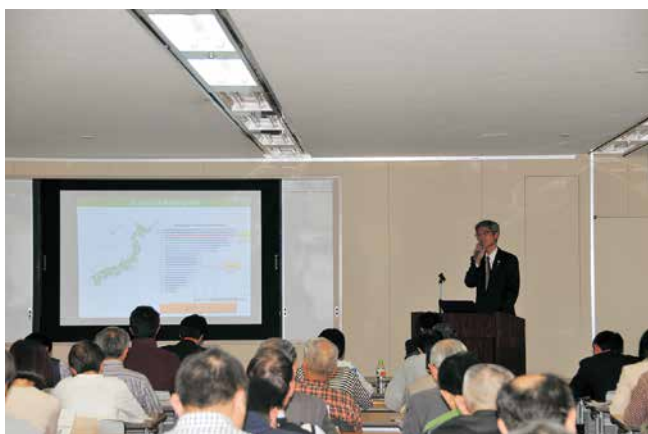


展示されたエコecoハウス・BBQバージョン

『木で未来をつくらう！』 長野県シンポジウム

「企画調整課」木材利用ポイントの普及を図るシンポジウム「木で、未来をつくらう！in長野県」（信濃毎日新聞社など主催）が四月二十六日、長野県長野市北石堂町のJ.A.長野県ビルで開かれ、約一三〇名の方が参加されました。

前半、奥田中部森林管理局長、信州木材認証製品センターの宮崎正毅副理事長及び長野県木材利用課浦井木材普及担当専門職から、森林や木材利用の現状、木材利用ポイント事業などについての講演が行われました。



講演を行う奥田局長

奥田局長からは、木を使うことの大切さ、良さ、地域材利用を進めていくための国の取組などについて講演がありました。毎年増加している日本の森林資源量は木材需要量を上回っており、国内で使う木材は全て国内の森林の伐採でまかなっても維持できると指摘。「木を使い、新しく木を植え、木を育てていくことが、バランスが良く、より多くの二酸化炭素を吸収する森林になっていく。」と訴えました。

宮崎副理事長からは、県産材は高いと思われがちだが、住宅建設費に占める木材費の割合は一割程度と指摘し、「戦後植えたカラマツなどは、今まさに使われるのを待っている。」と実情を話されま

した。

林野庁木材利用課の涌井木材普及担当専門職からは「木材利用ポイント事業」について説明があり、木造住宅の新築、床などの木質化、木製品・木質ペレットストーブ・薪ストーブの購入などにより、地域材の利用に応じて付加されるポイントで地域の農林水産品などの商品に交換でき、地域にも還元されることについてPRしました。

続いて「木材の『地産地消』で信州を元気に」をテーマとして、増田正昭信濃毎日新聞社編集委員をコーディネーターに、奥田局長、宮崎副理事長、久米えみ設計工房CRESS代表、植木達人信州大学農学部教授及び小林新F.M長野アノウンサーの五名によるパネルディスカッションが行われました。

久米代表は「体が冷えやすい方にとって木の熱伝導率が低いことは非常に重要。木が沢山使われている家は長生きできる。」とアピールしました。

木材加工業の取材をしてきた小林アノウンサーは、日頃から森林づくりや山の木をどうすれば使ってもらえるのかを考え、国産材のみを使ったおもちゃや表彰状などを製造販売している企業を紹介し、「木は日常の小さな物から使うことを意識することが消費者にとって大切。」と語りました。

植木教授は「林業だけで考えるのではなく、林業、農業、畜産業などと地域と



パネルディスカッションの様子

が一体となり、補完しあって、農山村の魅力を発信していくことが必要。」と提言しました。このシンポジウムは、全国四十七都道府県で開催され、管内の富山市、岐阜市、名古屋市でも開催されました。

各地からのたより

「戸隠森林植物園」で地元中学生による小鳥の巣箱かけ

【北信署】四月十五日、長野市立戸隠中学校二年生二十六名が、国有林内の戸隠森林植物園で小鳥の巣箱かけを行いました。

た。

この巣箱かけは、同校が「身近な戸隠高原に生息する鳥類に興味を持ち、生態について学ぶ」「自然に親しみながら動植物の保護に関して理解を深める」ことを目的として昭和四十八年から実施している伝統行事で、今年で四十二回目となります。



巣箱かけの様子

巣箱は生徒一人一人の手作りによるものですが、事前に戸隠森林官からこれまでの営巣の状況や巣箱作りのコツ等の授業を受けて作製しました。

巣箱かけは天候にも恵まれ、生徒たち

は少しずつ雪解けが始まった雪面の上を慣れない足取りで、北信森林管理署職員から巣箱を取り付ける高さや方向についてアドバイスを受けて、どの木に掛けようか慎重に考えながら、巣箱かけに適した樹木を選びました。

樹木を選んだ後は、はしごや巣箱を支えるなどお互いに協力しながら樹木に傷を付けないように、巣箱を取り付けました。

また、巣箱かけ終了後には、NPO法人戸隠森林植物園ボランティアの会の羽田収さんから、戸隠における野鳥の種類や生態について説明を受け、小鳥の巣作りに期待を膨らませました。

同植物園は野鳥の宝庫として知られ、百種類以上の野鳥が観察されています。生徒たちが心を込めて設置した巣箱に、今年もかわいらしい小鳥たちがやってきて、生徒だけでなく、同植物園を訪れるたくさんの利用者を楽しませてくれることが期待されます。

「戸隠森林植物園」でボランティアによる歩道整備

【北信署】四月十八日、小雨が降る戸隠森林植物園で、長野林業土木協会東北信支部北信分会会員三十五名が、ボランティア活動による歩道整備を行いました。

この活動は、同会の社会貢献活動の一

環として毎年行われているもので、今回で十回目となりました。

歩道整備は、全長約二キロにわたるバリアフリー歩道の支柱にグリーンロープを張る作業で、冬期間は積雪によるロープや歩道の損傷を防ぐために取り外しをしているため、開園前のこの時期に利用者の転落防止及び踏み荒らしによる湿地帯の植生保護を目的に設置するものです。



残雪の中でのグリーンロープ張り

参加者は、残雪の残る歩道を三班に分かれて北信森林管理署職員の指導のもと、ロープの長さ調節に気を配りながらお互いに声を掛け合い手際よく作業を進め、予定よりも早く作業が終わることができました。



作業に参加された皆さん

戸隠森林植物園の開園に当たっては、ロープ張りが開園準備の重要な作業であり、これまでの同会によるボランティア活動の取り組みが認められ、昨年度末には北信森林管理署から感謝状が贈呈され、今後も継続した取り組みが期待されます。

植物園は、四月二十六日から開園し、昨年よりも残雪が多い中、湿原に現れたミズバショウやリュウキンカは今年も鮮やかな姿を現し、多くの来園者を楽しませてくれます。

「保育園の森林」を紙で再現

【中信署】四月三十日に中信森林管理署において、隣接する松本市堀米保育園の年長・年中児四十二名を招いて森林教室を行いました。

これは、保育園の本年三月の建て替えに伴い、新たに交流を深めようと開催したものです。

園児達は小雨の降る中、雨合羽を着て中信署まで元氣よく歩いてきました。

初めに署オリジナルの「お山のニコニコさん」の紙芝居を上映しました。紙芝居は山の木を伐り過ぎてしまったことで災害が発生し、山を復元するためには何



元氣よく手を上げる園児たち

が必要なのかを問う内容で、職員の語り掛けに熱心に耳をかたむけていました。



森林づくりをする園児

森林の大切さを学んだ園児達は、模造紙に描いた山に、紙で出来た木や自分たちが描いた動物の絵を貼り森林づくりの疑似体験をしました。

続いて、どんぐりを使った工作を行いました。園児達は小さく丸いどんぐりに悪戦苦闘しながら顔を描いたり模様を付けてストラップのお土産作りをしました。

職員との交流も深まり、地域に根付いた森林管理署を園児達を通してPRできたイベントでした。

後日、園児達が手作りの感謝状を持って訪ねてくれ、微笑ましい限りでした。



浄土山展望台から室堂(立山登山の拠点)を望む

シリーズ 「森林官からの便り」

【富山署 立山森林事務所】

高橋良二 森林官

立山森林事務所は、富山県南部の富山県中新川郡立山町芦峯寺に位置し、管轄する国有林面積は、約三万五千ヘクタール(立山町約一万六千ヘクタール、富山市約一万九千ヘクタール)。この他、官行造林地として約三百二十ヘクタールを管理しています。

メインとなるのは、富山県東部の長野県と隣接しているブナ坂国有林及び南東部の岐阜県と長野県に隣接する黒部谷割国有林となります。

ブナ坂国有林は、標高五百メートルから三千メートルと標高差が大きく植生も変化に富んでおり、中部山岳国立公園特別保護地区やラムサール条約登録区域等、様々な指定を受けている国有林です。

また、日本百名山に登録された山を多数持ち、登山道や山小屋施設に加え、立山黒部アルペンルートが整備されているため、登山者や観光客が多く訪れます(平成二十五年度アルペンルートの入込者数九十九万一千人)。

このため、七月の海の日より八月二十日までの観光客が多数訪れる時期は、グリーンサポートスタッフを活用した高山植物保護事業を実施します。

活動内容は、カメラ撮影に夢中になり立入禁止区域へ入り込む人への指導、ゴ



グリーンサポートスタッフと(後列右端が高橋森林官)

ミや忘れ物の回収、怪我をした人の救護対応、外来植物の除去作業や高山植物の説明等を行っています。

過去に比べると観光客のマナーが良くなり全体のモラルは向上していますが、ベンチや椅子の下等、見えない場所へゴミを捨てる人や危険な立入禁止区域へ入り込む人もいることから継続して実施していく必要があると考えています。

黒部谷割国有林は、ブナ坂国有林同様の高山帯に位置し、国立公園等に指定されています。当該国有林では、旧登山道の沿線において踏圧や融雪時に積雪が地表面を滑ったり、雨水等による洗掘によって植生が荒廃している箇所があります。

このため、雲ノ平山荘、東京農業大学及び富山森林管理署の三者が協働による植生復元事業を、環境省、富山県、富山市とも連携を図りながら進めています。

事業内容は、荒廃して土壌が見える箇所へ植生マットを敷き詰める作業を実施、植生の回復を模索しているところです。

この他、職員パトロールによる富山県と長野県境の稜線沿いの巡視や、最近ではニホンジカの入り込みが確認されたことから、稜線沿いに監視センサーカメラを設置してニホンジカの観測も実施しています。

当事務所管内における遠隔地での巡視は、登山道を移動し山小屋に宿泊するこ

とから山登りが好きな人にとっては夢のような事務所と思われますが、一歩間違えると遭難や滑落事故を起こす危険性が極めて高い場所でもあります。

これから事業最盛期となりますが、安全対策を確実に実施し、無事故無災害で業務を遂行していきたいと考えています。



植生復元事業(植生マットの設置)

行事・会議等の予定

◎長野県植樹祭

6月7日 長野県諏訪郡富士見町

◎富山県林政協議会

6月10日 富山県富山市

◎事業担当課長会議

6月26日～27日 林野庁



須原宿町並み

◆水舟の里「須原宿」
 中山道三十九番目の宿場「須原宿」は、木曾谷の中では一番古くに栄えた歴史ある宿場町です。宿場の創設は古く戦国時代の頃ともいわれています。宿駅として指定されたのは慶長六年（一六〇二）で、当初は木曾川沿いに町割りされましたが、正徳五年（一七一五）の大洪水により大きな被害を受け、享保二年（一七二七）現在の位置に移築されました。



須原宿は古くから湧水が豊富で、宿場の中央沿いにはサワラの丸太をくり抜いた「水舟」が所々に置かれ、住民の日々の生活を支え旅人の喉を潤していました。この水舟は上水道の普及により無くなりましたが、昭和六十年に地域住民により再現・保存され、独特の町並み景観を作り出しています。



宿場に置かれている「水舟」

◆須原宿の町並み

須原駅を出てすぐに正面に、幸田露伴の小説「風流仏」に描かれている「桜の花漬け」を江戸時代末より製作・販売している「大和屋」があります。ここから南に進み宿場の中ほどには島崎藤村の「ある女の生涯」の舞台となった「清水医院跡地」（建物は犬山市「明治村」に移築）や正岡子規の歌碑、江戸時代には

脇本陣を務める傍ら酒造業を営み中山道の歴史と共に歩んだ、現存する木曾谷最古の酒蔵「西尾酒造」があります。旧須原小学校門を過ぎると、今も飲用することのできる屋根付きの「水舟」があります。ここから宿場はずれまでは、江戸時代の旅籠の様式が色濃く残っています。この地区では、毎年七月十七・十八日に「鹿島神社例祭」が開催され、御神輿や長持ち行列、須原宿に古くから伝わる盆踊りの「須原ばねそ」が地元の方たちにより演じられます。



須原長持行列



桜の花漬

◆木曾三大寺、最古刹「定勝寺」

宿場町の最も南に位置する「定勝寺」は、木曾三大寺の最古刹であり、本堂、庫裏、山門の三建築が桃山風の豪壮な建築様式として昭和二十七年に国の重要文化財に指定されています。定勝寺には寺宝が多く、木曾義元肖像



定勝寺山門

画や香林和尚頂相などが長野県宝に指定されており、書院の千羽鶴の壁画や東洋一の本曾ヒノキダルマ座像も見応えがあります。また、平成四年にこの寺で発見された「番匠作事日記」には天正二年（一五七四）には仏殿を修理した際にそば切りを振る舞ったことが記載されており、これが日本最古のそば切りに関する記録といわれています。

アクセス方法

・公共交通機関 JR中央本線須原駅下車

・自家用車 中央自動車道中津川IC
 ↳国道十九号線経由で約一時間
 お問い合わせ
 大桑村観光協会 TEL〇二六四一五五一
 四五六六